もっと知ってほしい 奥州市民憲章

奥州市民憲章とは

奥州市民憲章は、市のまちづくりの目標、市民生活の規範として平成19年2月に制定されました。市自治基本条例や市総合計画の中にも盛り込まれ、まちづくりにおける目標、指針として位置付けられています。

平成23年には、市の一体感を育むきっかけとするために、市議会開会冒頭での市民憲章唱和の取り組みが始まりました。現在では、市が主催する多くの会議で唱和されています。また、各地域でも地区振興会などが主催する会議や行事で広く唱和されるようになりました。

より良い奥州市を目指す

市は、目指す都市像として「地域の個性がひかり輝く自治と協働のまち　奥州市」を掲げています。

市民一人一人が自分たちの住むこの奥州市に誇りを持ち、自分たちの力で地域の個性を生かしたまちづくりを進めていくためにも、市民憲章の役割は今後ますます重要なものになります。

普及推進運動

会議、イベントの際の市民憲章の唱和やポスターの掲示などによる市民憲章の普及・啓発、また、自分たちが住むこの奥州市をより良いところにしていくための活動を行うなど、市民憲章推進運動（左記）を通じて奥州市の一体感の醸成と、より豊かな奥州市の実現を目指していきましょう。

■**問い合わせ**＝本庁地域づくり推進課市民活動係（江刺総合支所・☎34-1618）

市民憲章のポスターがダウンロードできます◀

市民憲章推進運動

1、市民憲章の唱和
2、市民憲章の普及、啓発
3、市民憲章の理念に則した、より良いまちを目指した活動の実践

水路清掃活動（日高南行政区）

花植え（二渡・下柳・白石沢子ども会）

～奥州市民憲章～

わたしたちは、歴史・伝統・自然に恵まれたこのまちの市民であることを誇りとし、さらに良いまちをめざして市民憲章を定めます。

一、ふるさとを愛し　いきいきと働くことができるまちをつくります
一、すすんで学び　文化のかおり高いまちをつくります
一、みんなが手をつなぎ　健康で明るいまちをつくります

（平成19年2月20日制定）

We support the ILC

希望のひかり

第81回

国際リニアコライダー（ILC）計画の各種最新情報をお届けします

スイスの欧州合同原子核研究機構（CERN）は6月19日、ヨーロッパの素粒子物理学の長期戦略である次期欧州素粒子物理戦略（以下「次期戦略」）を公表しました。この戦略は2006年に初めて策定され、今回2回目の更新を迎えるものです。今回の希望のひかりでは、この次期戦略などについてお知らせします。

次期戦略でILCは

次期戦略において、ILCに関連する内容は次のように記載されました。（以下要旨）

▼衝突型加速器の中では、ヒッグス粒子を大量に生成しその特性を精密に測定できるヒッグスファクトリーが最重要である。（ILCもヒッグスファクトリーに含まれる）

▼ILCは欧州戦略に適合しており、タイムリーに進めば欧州は協働を望む。

「参加」から「協働」へ

前回更新の際には「欧州グループはILCへの参加を熱望し、参加の可能性を議論するため日本からの提案を待つ」というものでした。今回公表された戦略では、「参加」から「協働」へと、これまでよりも積極的な姿勢が示されるものとなりました。

米に続き欧州も積極姿勢

文部科学省は、今年2月に開催されたILCに関する国際会議で、米国が「日本がILCをホストする場合には支持すること」や「ILC建設の資機材などを提供する『現物貢献が可能』との姿勢を示していることを明らかにしました。

一方、欧州との協議では、今年2月に初めて開催された英独仏との4者協議で「ILC計画に参加する資金的な余力はない」とのコメントがあったとされています。しかし、英独仏を含む23か国の政府代表と研究者で構成されるCERNの理事会が次期戦略を決定したことで、米国に続き欧州も積極姿勢を示したことになります。

今後期待される国際協議

文部科学省は平成31年3月、ILCに関し、①国内の正式な学術プロセスで議論することが必要、②国外においても、欧州素粒子物理戦略などにおける議論の進捗を注視する、③文部科学省はILC計画に関心を持って国際的な意見交換を継続する、という見解を公表しました。

①については、今年1月の日本学術会議のマスタープランに「学術大型研究計画」として盛り込まれ、現在、ILC計画も審査対象である文部科学省のロードマップの策定が進められています。②については、本記事のとおり策定されました。今後は、③のILC建設に向けた費用分担など、米国に加え、欧州とも国際協力に関する具体的な協議が進むことが期待されます。

本コーナーでは、ILC計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽にご質問ください。
■問い合わせ＝本庁ILC推進室（☎34-2123、FAX22-2533、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）

おうしゅう羅針盤

暦の上では秋となりましたが、暑い日が続いています。いかがお過ごしですか。

奥州いさわカヌー競技場で東京五輪カヌースラローム日本代表の合宿が行われ、リオ五輪銅メダリストの羽根田卓也選手ら選手の皆さんを激励しました。同コースは、胆沢ダムからの水量調整により、気候に左右されず同じ環境でトレーニングが可能で、選手からは全国有数のカヌー場であると、非常に高い評価をいただきました。奥州の地でレベルアップした選手が、来年の東京五輪で活躍することを祈っています。

新型コロナウイルス感染症の影響により延期されていた、米大リーグがついに開幕し、大谷翔平選手のチャレンジが再スタートしました。市では開幕に合わせ、応援動画を作成しました。大谷選手の母校である姉体小学校の児童など、ゆかりのある皆さんからのメッセージを、市HPで公開していますのでぜひご覧ください。大谷選手の活躍をみんなで応援しましょう。

先月も多くの企業・団体などから、マスク、フェイスシールドなど新型コロナウイルス感染症対策に関する寄付をいただきました。遠く台湾からも、市観光物産協会の奥州台湾観光親善アンバサダーである甄啓剛（ジェン・チーガン）さんと楊揚（ヤン・ヤン）さんから、マスク一万枚を寄贈していただきました。水沢JCと台湾のJCとの相互交流が30年以上継続されているなど、深い絆が今につながっていると感じています。改めて皆さんのご厚意に感謝いたします。

岩手県内において、新型コロナウイルスの感染者が確認されました。市民の皆さんには、小まめな手洗い、咳（せき）エチケットの徹底、人と人との距離の確保や換気の実施など、感染対策の継続をお願いいたします。

奥州市長　小沢昌記